

タスマニアの伝統的な行事と歴史

香川県立小豆島中央高等学校

普通科2年 佐々木 和鼓

私はタスマニア派遣事業を通して、タスマニアで開催されている祭りと祝日について学んできました。私がこのようなことを学ぼうと思った理由があります。将来、世界中の文化や人々と関わり、多様な考え方に触れ柔軟に対応することのできる飛行機のキャビンアテンダントになりたいと思っているからです。

タスマニアには、昔から続く伝統行事から最近始まった祭りまで多くの祭りがあることを知りました。

また、芸術・音楽・食、さらに自然や文化をテーマにしたさまざまなジャンルの行事があり、それぞれが独自の魅力を持っていることがわかりました。

これらの行事は、タスマニアの豊かな自然環境とその土地ならではの歴史や文化を感じ、地元の人にとっては自分たちの誇りを感じる大切な行事であり、観光客にとってはタスマニアの豊かな自然や独自の文化を直接感じ取る貴重な機会となると考えました。

タスマニアの行事を三つ紹介したいと思います。

一つ目は、Nayri Niara Good Spirit Festival です。

この祭りはタスマニアの先住民族のパラワ族の文化と精神を祝う祭りです。儀式・音楽・踊りなどが行われ、先住民文化を称賛し、地域社会や訪問者に伝統と精神的なつながりを伝えることが目的とされているそうです。

二つ目は、Dark Mofo です。

冬至を祝うアートと文化の祭りで、モナ美術館が運営に携わり、2013年から始まった人気の祭りである。夜を舞台に開催されており、奇抜な内容も含まれているのが特徴です。

三つ目は、Taste of summer です。

タスマニアの食文化・ワイン・地元産品を祝うイベントです。

私は、ホストファミリーに、地域交流パーティーに連れて行ってもらいました。そこでは、住民が持ち寄ったデザートがあつたり、子供用のフェイスペイントが開催されていて、日本の夏祭りや町内会のイベントに似ていると感じました。日本にも多くのジャンルの祭りがあるので、タスマニアと似ていると感じました。また、多様な文化や祭りが多いのは、世界中の多くの人に住んでいる多文化社会のオーストラリアだからこその特徴なのではないかと考えました。ホストファミリーから街中には様々な国の料理屋があると伺ったように、本当に多くの料理屋があつて、このことも多文化社会に関係していると考えました。国や地域が異なる祭りやイベントに参加することで、価値観が違っても一緒に楽しんだり、理解し合ったりできることの大切さを学びました。この経験は、将来キャビンアテンダントとして働くうえでとても大事なことだと思います。

ホバート市の副市長から、祝日について学びました。オーストラリアには、Harmony

day（調和の日）があり、オーストラリアの文化的多様性を祝い、お互いの文化を尊重する日です。また、日本にもあるこどもの日は、オーストラリアでは祝日ではなく 10 月にあり、子供の週と呼ばれているそうです。子供の成長を祝うだけでなく、才能や特技を伸ばす工夫もされていることがわかりました。

私は日本とオーストラリアで、祝日の時期や内容は同じだと思っていたので驚いたし、新たな発見ができてよかったです。タスマニア派遣事業を通して、日本にいたら感じるこのできなかった文化の違いを自分の肌で感じる事ができました。実際に生活している中でも、学校の自由さや食生活、洗濯など日本と異なることが多くて面白かったし、違いに対して柔軟に対応していくことの大切さを学ぶことができて、とても良い経験ができました。実際に地域の祭りに参加させてもらったことがあります。地域の人たちが熱心に教えてくれて、伝統を受け継ぐことができました。地域の誇りである祭りに力を入れていることを思い出し、タスマニアの祭りも同じように多くの人の思いが詰まった誇りであるのではないかと考えました。

私が住んでいる地域もタスマニアも、自然と文化が融合した祭りが多く、地元の人々がその伝統を守り、未来の世代に伝えていく大切さが似ていると感じ、親近感が湧きました。

この経験を通して、自分の目標をしっかりと定めて、それに向かって努力・行動することの重要性を深く実感しました。ただ単に与えられた環境で過ごすのではなく、自分自身の意思をしっかりと持って充実した生活をしていきたいです。学んだことをこれからの進学・就職に繋げていきます。また、もっと多くの国や文化と触れ合い、視野を広げていきたいです

私にとって、本当に個性が豊かな素敵なメンバーと派遣事業に参加できて幸せだし、これからの選択肢が広がったと思います。
ありがとうございました。



▲8月7日 歌舞伎を紹介